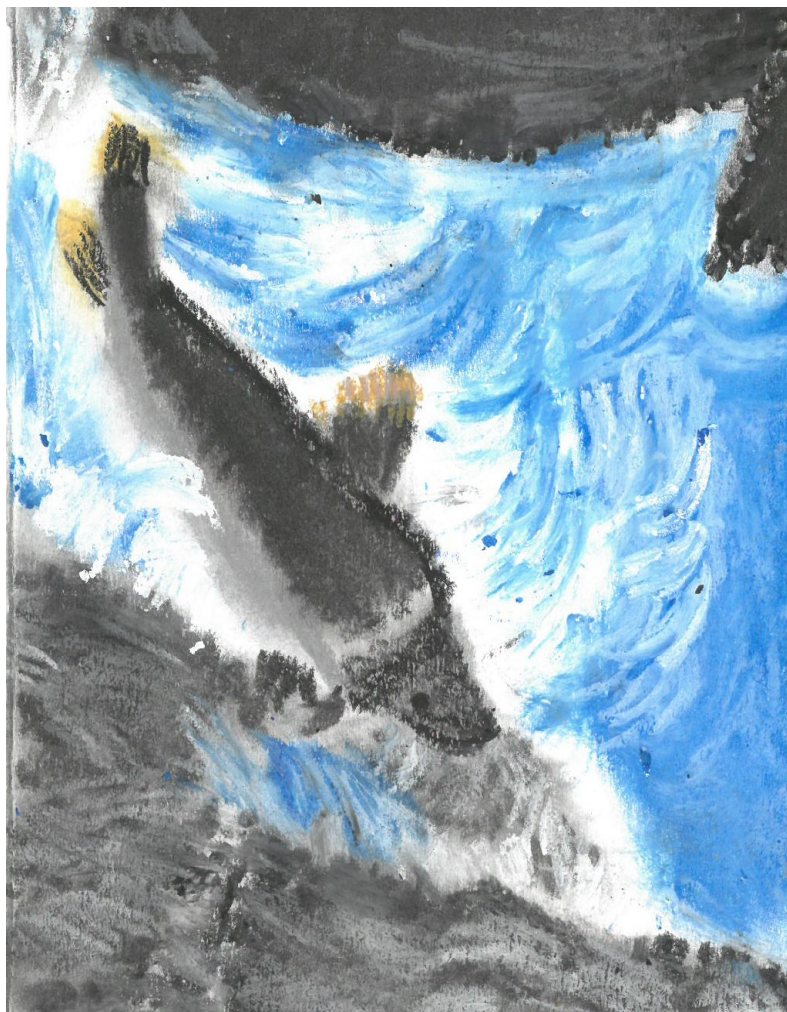


# SSKO

社会福祉法人 はらからの家福祉会

# われら同胞



NO.55

☆☆☆ 目次 ☆☆☆

- 2 p 精神保健福祉調査情報非開示の怪～「630調査」をめぐる問題～
- 3 p 地域生活支援センター プラッツ
- 4 p グループホーム ピア国分寺
- 5 p さつき共同作業所
- 6 p ネットワーク推進事業部
- 7 p 監事退任・就任のお知らせ・新職員紹介
- 8 p 賛助会コーナー

精神保健福祉調査情報非開示の怪「630調査」をめぐる問題

はらからの家福祉会 理事／総合施設長 伊澤雄一

年度が改まるとともに元号も改まりました・・・。

毎年この時期になりますと昨年度の活動まとめが集中的に行われるのですが、5月に実施された当会監事による内部監査を踏まえ、6月6日には理事会を開催し、昨年度のまとめに力点を置いた審議検討を種々行いました。さらに6月20日には評議員会・理事会による精査も行われ、それらを経てあらたな気持ちで諸課題に向かうこととなります。

現場の支援体制を整えることは運営における大きな課題ですが、今期、長年財務会計を担ってきた担当職員の退任とともに、新たな担い手を迎え入れ、育児休業職員の職場復帰、さらに部署間異動と、いろいろございました。新職員に関しましては、本紙別コーナーにて紹介させていただきまます。どうぞよろしくお願いたします。

さて昨今の精神保健福祉分野で、大きな問題となっている事案として、『精神保健福祉調査情報の非開示問題』があります。

本調査は毎年6月30日を基準日にして、なので630（ロクサンマル）調査と呼ばれています。厚生労働省が全国の自治体や政令市などに、当該地域の精神科医療の実情（入院実態、診療体制、処遇状況等）を把握すべ

く行政調査を医療機関に対して行い、得た情報を厚生労働省が束ねて、広く国民に対して公開、配信するというものです。

この情報をもとに、精神科医療を利用する当事者あるいは家族の方が、医療機関を吟味、検討することに役立てていたり、また支援を担う関係者が、病院の傾向や処遇のあり様をとらえながら、病院に対して「退院支援」のアプローチを実施するなど、大切な情報源として存在しております。

昨年夏場には毎日新聞が、本調査情報をもとにひとつの記事を掲載しました。それは精神科入院における「超長期入院の実情」というものでした。わが国には50年を超える長期入院者が約1700名、最長入院は長崎県下の病院に92年の長期入院者が存在するという、他国では考えられない驚愕の事実報道でした。

本報道に対して、精神科病院の経営者などで組織される『日本精神科病院協会』は、「報道により個人情報保護が疎かになっているので、今後630調査への協力は考え直す」という会長声明を发出し、厚生労働省もその意見をあたかも「付度」したかの如く、全国の自治体に向けて情報の扱いに抑制をかけるよう発信し、自治体はそれを受けて「非開示」

の方向で動くという構図が出来上がってしまいました・・・。

このことにより重要な医療情報の流通が損なわれ、市民の医療選択に影響が出るとともに、退院支援活動にとつては、重大な情報不足という状況も生まれています。

この動きの前提となっている毎日新聞の記事ですが、何度読んでも本調査が個人情報の流出につながったとは思えませんし、むしろ何か別の意図が影響しているように思えてなりません・・・。

正直、国民に知らせたくない何かを隠しているように思えます。

大きな社会問題となっている目を覆うばかりのわが国の長期入院の実態なのでしょうか？あるいは身体拘束など、過酷な院内処遇の実情なのでしょうか？

いずれにせよ行政調査により取得した情報は間違いなく国民の物です。税金で行った調査結果は納税者に還元すべきものです。非開示を改め、従前の開示を切に求め、そのための追及を行う必要を思います。

630調査について  
情報公開請求した結果

	処分内容	その理由
北海道	一部開示	個人情報など
宮城県	部分開示	個人情報
福島県	一部開示	個人情報
新潟県	決定期間延長	個人情報
埼玉県	部分開示	個人情報
神奈川県	公開拒否	不存在
静岡県	非開示	不存在
滋賀県	一部公開	医療機関の特定
京都府	決定期間延長	個人情報
大阪府	不存在	不存在
広島県	不存在	不存在
香川県	非公開	不存在
福岡県	部分開示	個人情報

# 平成30年度地域生活支援センタープラッツ事業報告

年間利用者状況	① 対応種別 訪問 356件 ケースカンファレンス 88件 来所 1,145件 関係機関連絡 881件 同行 101件 電話 5,345件 メール 1件 その他 27件 ② 来所利用者数 3,714名（*平均来所者数 14名 / 日） ③ プログラム 参加者数 786名（開催数 144回） ④ 宅配弁当手配 504件 ⑤ ボランティア（実人数5名）プログラム回数 45回 傾聴ボランティア 38回 ⑥ その他 外部会議 96回 出向・出講 73回 家族会支援 3回 地域イベント（バザー参加） 2回
利用者の属性等	1. 利用者総数 299名 地活登録利用メンバー 98名 男性 50名 女性 48名 新規登録 10名 更新 86名 再登録 2名 国分寺市内 85名 市外 13名 平均年齢 51.97歳 2. 指定特定相談支援事業利用者 99名（3/31現在） 3. 指定一般相談支援事業利用者 1名（3/31現在） 4. 障害者地域移行促進事業 担当圏域（北多摩西部圏域、西多摩圏域） 行政・事業者支援、研修開催、LP（ピアサポーター）活動 など
職員体制	常勤：伊澤(管理者) 中野(所長) 藤井(~7月) 角谷 毛塚(7月~) 小野寺 山下 大竹 非常勤：山内 保坂
開館状況	開館日数 262日

## 〜平成30年度振り返り〜

30年度は特に後半にかけて交流室がよく賑わっていたように思います。隣の事務所にいても大きな笑い声が聞こえることがあり、輪に加わりたいたいなと思うことが多かったです。理由として考えられるのは、長らくお休みしていたプラッツ食堂を復活させるなど若手職員を中心にプログラムへの関わりを積極的に行ってきたことがあるかと思えます。

障害者地域移行促進事業においては事業内容が大きく変わりました（病院担当制↓圏域担当制）。戸惑いつつではありますが、少しずつ形が整ってきたように思います。

## 〜令和元年度活動展開にあたり〜

今年度を迎えるにあたっては職員の異動や退職はなかったため、新規プログラムも含めてより充実を図っていきたいと思います。

そのためにも事業の効率化を進めることが重要だと考えています。特に指定特定相談支援事業（計画相談）、指定一般相談支援事業（地域移行支援、地域定着支援）においては問い合わせ含めて件数も増えてきています。質・量ともに多くの方へよりよいサービスが行き届くように思っています。

他機関との連携、職員間のフォロー、体制が変わらなかつたからこそ、そういったところを大事にしていきたいらと思えます。



# 平成30年度 ピア国分寺事業報告

## グループホーム・ショートステイ



グループホーム（4ユニット、定員26名）の年度内入退去は、入居者9名、退去者8名でした。退去した方の多くはアパートでの単身生活へと移行されましたが、再入院という形で退去となる方もいらっしゃいました。また退去者だけでなく、利用中に入院治療を必要とする状態になった方もいました。再入院の防止や、入院時の対応等まだまだ課題は多いのですが、単身生活の見込みが十分に立っている方、病状が安定している方だけを受け入れているのではなく、場合によっては入院治療も必要としながらの地域移行支援に積極的であり、それに向けての病院等との連携を大事にしている結果であるとも考えているので、今後も利用者とともにチャレンジを続けていきたいと思っています。

毎週定例のスタッフ会議（個別ケース中心）とは別に、月に1度運営中心の会議を設けました。定例会議の中だけではなかなか進められなかった運営面の課題等

に対し時間を取って検討できるようになり、また支援や運営に対する考えや対応等についての共有を今まで以上にできるようになりました。

お茶会の在り方や名称について、利用者アンケートを実施しました。お茶会は『交流会』と名称を改めました。今後、グループホームでの催しに関するアンケートも検討しています。

ピア国分寺が東京都から受託している、退院促進を目的として入院患者を対象とした「グループホーム活用型ショートステイ事業」については、31名（前年度21名）の方が延べ261日（前年度211日）利用されました。多くの利用希望があり、しばらく先まで予約で埋まる状況の中、なるべく皆さんにその方のペースで利用を重ねていただけるよう、日程調整に工夫しながら取り組みました。カンファレンス出席依頼には積極的に参加し、退院への動きに対するアセスメントや協力も積極的に行いました。

### 〈令和元年度抱負〉

30年度報酬改定や職員体制の変更にあわせて、現在の支援内容の見直しをはかりたいと思っています。特に地域移行支援におけるグループホームの担える役割という点に重きを置き、利用者状況や運営状況をより具体的に把握、整理して、ニーズはどこにあるのか、今後はどこに力を入れていく必要があるのか、部署内検討を進めます。

また前年度は特に、グループホームの環境面が利用者の病状に影響する、あるいは病状の変化に環境面での対応が難しくなり、入院や外泊を余儀なくされる状況がありました。利用者の安心、安全を保てる環境作りに努めたいと思います。そしてその中で入院等緊急時の対応についても課題がみられました。そういった状況を見ながら、誰がどう対応するのか、出来るのか、関係機関やご家族等と事前に確認、相談しながら明確にしておけるよう、グループホーム内で検討、整理を行いたいと思います。

# 平成30年度さつき共同作業所事業報告

## 就労継続支援B型／自立訓練（生活訓練）

◆「運営」報酬改定により自立支援給付費は約三二〇万円の減収となりました。平均利用者数を二名増やすことを目標にサービスに努めてまいりましたが、利用者数は前年度とほとんど変わりませんでした。しかし、通所者を増やそうという目標を打ち立てたことで、

各職員のサービスの意識が向上し、結果、支援の質の向上につながりました。

◆「職員配置」中堅職員一名が退職しました。放置自転車撤去作業のドライバー不足が見込まれ、募集を継続しましたが車の運転が出来る職員の採用が厳しい状況が続いています。

◆「研修」新入職員を中心に必要な研修参加に取り組んでまいりました。

受講した研修の振り返りをスタッフ会議で行い、職員全員の知識の向上や共通認識、キャリアアップにつながっています。

◆「就労継続B」就労一名。作業に

参加できる枠を増やし、参加者が増えましたが、作業をほとんどしなくても同額の工賃が支払われるなど、質に課題が出てきました。ドライバーの確保も厳しいため参加枠の見直しも検討しています。

放置自転車撤去作業では祝日の振り替え作業が無くなり約五十万円の減収のほか、市民プール工事のためプール売店作業が二か月間中断、神明宮作業は旧工賃額のまま推移と作業参加者が増えるいっぽう、作業収入が減収になり運営費確保のために月額平均工賃支払い額一万円以上を確保することが厳しくなりました。

ハンドメイドは、安定した売り上げを継続できました。

厳しい作業状況の中、個別の支援を丁寧にしたことで、一名を就労につなげることが出来ました。他にも就労支援センターに三名が登録し就労に向けて活動を継続しています。

◆「生活訓練」利用者のニーズに沿った主体性をもって参加できる日常生活に必要な魅力的なプログラムを

随時検討し柔軟に実施した結果、プログラム参加者が増えました。プログラムに安定して参加出来るようになると、プログラムが無い日でも通所できる利用者が増えてきました。就労への意識が高まっている方も居られます。

訪問は関係機関からの紹介により新規利用希望者を受けています。

## 平成31年度 事業計画

◆「運営」アメニティーを充実させサービス向上を目指し、年間平均利用者数を二名増やします。

就労者二名を目標に就労支援を充実します。

◆「職員配置」職場定着を意識し職員が相談しやすい仕組みをつくりまします。

運転の出来る職員を雇用します。

◆「研修」研修計画を立て、必要な研修に参加します。受講した研修はスタッフ会議で振り返りを行うことで職員の育成に役立てます。

◆「就労継続B」室外作業では、作業契約を見直し安定した収入を得ます。

室内作業では、新商品の開発を強

化し各販売店に営業をかけ自主製品の販売を促進します。等、利用者のやりがい、働く場としての機能を強化します。

一般就労を目指す利用者へ勉強会を継続し、利用者のニーズに沿った講義の開催、それに伴うフィードバックを丁寧に行うと共に個別支援計画に連動させ就労支援を行います。

通所困難になった方へ訪問による支援等を行うことで社会的孤立を防ぎます。

◆「生活訓練」利用者が主体性をもって参加できる日常生活に必要な魅力的なプログラムを実施します。

利用者のニーズを掘り起こし、個別支援を軸にプログラムの提供を行い、次のステップへつなげる支援を意識します。

訪問は状況に応じて柔軟な支援が行えるよう、スタッフの充実を図り関係機関とも連携を図ります。



# ネットワーク推進事業部

ネットワーク推進事業部は、障害者自

## 『平成30年度の事業報告』

立支援法という様々な福祉サービスの転換期に、精神分野についての病気や障害を、医療だ福祉だとばらばらのサポート

ではない何かをしようという思いから始まりました。医療の場において、精神科医師、看護師、作業療法士、精神保健福祉士、心理職、ピアスタッフ、受付と

当時社会福祉の目線から精神科クリニックを作ろうとしましたが、社会福祉法だけでは叶いませんでした。そこで現理事長が2010年に、「国分寺すずかけ心療クリニック」（略称すずかけ）を開業して、その

そのためのネットワーク推進事業部は、すずかけが地域のパートナーになるようにすることも目的なので、はらからの家福祉会（略称はらから）でもあり、すずかけでもあります。しかし、はらからとすず

かけの連携が目的とはいえません。もちろん精神科医療と精神福祉がつながる考えは大事ですが、利用者中心に見た場合、医療が必ずしもすずかけが、福祉がはらからがよいとは限りませんし、むしろ利

用者を囲ってしまいう危険性の方が強いので、資源として繋がっていることが、地域の皆に役立つことや、新しい資源を生み出す手伝いになればいいと考えています。

だけでなく、誰がどんなことを日頃行っているかをお互い知ることは、利用者への本当の意味での情報提供になると思います。その意味ではまだまだ動

## ③ 国分寺あゆみ会への協力と協働

やらせて頂く多くは協力と思っただけでなく、誰がどんなことを日頃行っているかをお互い知ることは、利用者への本当の意味での情報提供になると思います。その意味ではまだまだ動

④ リカバリー支援とピアとの協働  
クリニク内ではWRAPやSHAREを含めて、日常的にピアスタッフと一緒に仕事をしています。SHARE普及委員会の一員として、学会等で発表し、研修会を開催しました。又病院だけでは

④ リカバリー支援とピアとの協働  
クリニク内ではWRAPやSHAREを含めて、日常的にピアスタッフと一緒に仕事をしています。SHARE普及委員会の一員として、学会等で発表し、研修会を開催しました。又病院だけでは

なく、訪問看護等でSHAREを使い始めました。ピアスタッフとともに研修を受けた精神保健福祉士や看護師がSHAREのツールを使っ

訪問をさせて頂きました。  
※SHAREとは、治療を受ける患者さんの希望とリカバリーの実現を助け、患者さんと主治医とのSMI（Shared Decision Making…共同意思決定）を支援するために開発されたコンピュータシステムの愛称です。

## 【平成31年度の抱負】

① 地域連携、多職種連携はもちろんですが、何よりもシンプルに連携の下、皆で利用者や家族の話をきちんと伺うようにしたいと思っ

分寺でおきた悲しい事件を自分達の問題として考えていきたいと思えます。又「多摩心理教育ネットワーク」のメンバーも時を経、立場も変わりつつ集まっています。より広がったメンバーと標準版家族心理教育等を通し、利用者や親という別々の視点だけではなく、家族全体に役立つ事も考えていきたいと思

主体的に資源を使えるよう、ピアスタッフとともにSHAREの普及活動等を継続したいと思



## 監事退任・就任のお知らせ



この度、ながらく当法人の監事を務めていただいた、相澤和美先生がご退任になりました。1998年に、はらからの家が社会福祉法人となった当初から、継続して監事をお願いしていました。法人発足当時の役員で、現在まで継続して務めていただいたのは、総合施設長の伊澤を除くと、相澤先生だけでした。いつも支援の質、支援者の姿勢や理念、法人のあり方などに、厳しくも愛情あふれる叱咤激励をいただいていた。写真は先日、最後の理事会に参加いただいた際の花束贈呈です。



理事長の藤田です。

退任された相澤先生に代わり、梶達彦先生に監事をお願いすることになりました。現在、立川に新設された愛成会ココロのクリニックにお勤めの精神科医でいらっしゃいます。地域の精神保健・医療・福祉への熱意も造詣も深い方で、当法人も参加している地域ネットワーク多摩（略称：ちたま）にも継続して参加されています。穏やかで、いつもにこやかにお話しされる先生です。（写真は突然お願いして撮らせてもらったもので、表情硬いですが…。）はらからの活動に、新たな風を吹き込んで頂けると期待しています。



## 新人紹介～今年度も同胞が増えました～！

初めまして、5月から入職しました馬場若奈と申します。所属は財務部です。

私は、これまで民間企業の総務・経理に携わってきました。ずっとその会社で仕事をすると漠然と考えていましたが、定年まであと何年って考えたところで仕事への取り組み方を考え立ち止まることをしました。

今まで生活することに重きをおいて仕事をしてきましたが、定年まで、仕事ができる時間が限られていると意識したことで、誰かの役に立つ、生活のためだけでない仕事について考えるようになりました。そして、ご縁をいただいて令和のスタートに入職することができました。

福祉にかかわるのは初めてで毎日が新しいことの連続ですが、一日も早く仕事を覚えて皆様のお役に立ちたいと思っています。事務方としてスタッフの皆さんが気持ちよく働ける環境を作り、メンバーさんが安心して過ごせる居場所作りのサポートができるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



# はらからの家福社会賛助会コーナー

<平成30年度11月から3月の間に賛助会費をご納入頂いた皆様(順不同 敬称略)>

池谷 敏子 石川 義博 植村 雅子 中村 美津江 濱田 誠士 藤田 英親  
村上 まどか 山崎 昌子 宮内 眞木子 金子 鮎子 高見 法孝 上賀 祥智  
正田 久子 川崎 嘉代 辰田 智子 分島 徹 匿名1名

敬称略

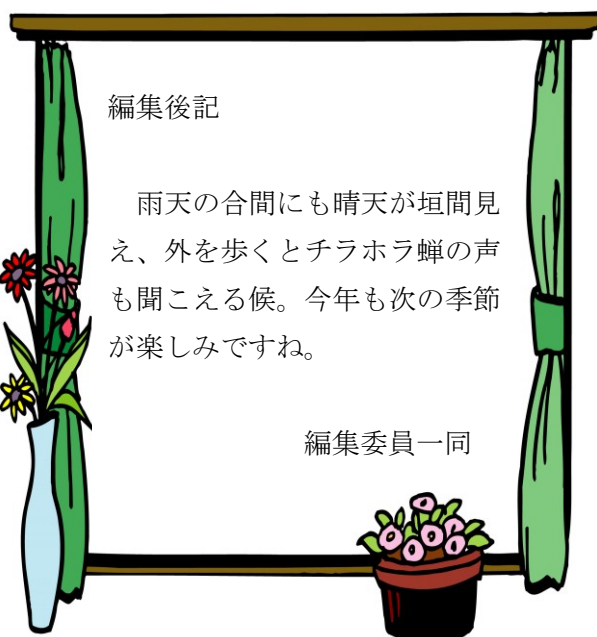
会員の皆様、本当にありがとうございました。今後ともなにとぞ宜しくお願い致します。

## 30年度はらからの家福社会賛助会決算報告 単位：円

支 出		収 入	
通信運搬費	82	賛助会費収入	533,000
雑 費	20,000	(92名)	
役 務 費	2,102	受取利息	0
郵便手数料	8,730	その他の雑収入	0
法人寄附	450,000		
当期繰越金	77,284	前期繰越金	25,198
合 計	558,198	合 計	558,198



※郵便振替用紙を同封させていただきましたので、令和1年度賛助会費、何口(1口2千円)でも結構です。お振込みいただくと幸いです。会費をご納入いただいた方のお名前を本紙に掲載させていただいておりますので、匿名希望の場合はその旨通信欄にお書きください。



### 編集後記

雨天の合間にも晴天が垣間見え、外を歩くとチラホラ蟬の声も聞こえる候。今年も次の季節が楽しみです。

編集委員一同

はらからの家福社会ホームページ

<http://harakaranoie.com/>

【編集人】社会福祉法人はらからの家福社会  
〒185-0021

東京都国分寺市南町 3-4-4

T E L 042-323-5637

【発行人】障害者団体定期刊行物協会  
〒157-0072

東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

【定 価】¥120